

世界遺産登録推進シンポジウム2015

「日本固有の防災遺産—立山砂防の防災システムを世界遺産に」の開催結果について

「立山・黒部」の世界遺産登録推進に向けて、富山県は関係団体等と連携・協力しながら、立山カルデラの防災遺産（歴史的砂防施設群）の国際的評価の検証・確立、文化財指定の推進に取り組んでいます。

今年、専門家による座談会や論文を掲載した図書「日本固有の防災遺産—立山砂防の防災システムを世界遺産に」が出版されることを記念して、シンポジウムを開催しました。図書の主要執筆者による立山砂防の世界遺産登録に向けたパネルディスカッションや、専門家による講演をとおして、幅広い県民の皆さんに立山砂防の価値や魅力について知っていただき、世界遺産登録の意義や課題解決について共に考えました。

- 1 **開催日** 平成27年11月3日（火・祝）
13:30～17:30
- 2 **場 所** ホテルグランテラス富山 瑞雲
- 3 **参加者** 約250名
- 4 **主 催** 富山県世界遺産登録推進事業
実行委員会
- 共 催 違い文化を創る会
- 5 **内 容**



13:30 ～	■挨拶 石井 隆一 富山県知事
13:40 ～ 14:25	■基調講演「世界遺産の歴史や近年の動向からみた立山砂防の防災システム」 前ユネスコ事務局長 松浦 晃一郎
14:25 ～ 15:10	■講演「自然と共生した世界に誇れる防災遺産・立山砂防」 富山県知事 石井 隆一
	休憩（10分）
15:20 ～ 17:30	■パネルディスカッション 「日本固有の防災遺産—立山砂防の防災システムを世界遺産に」 コーディネーター 西村 幸夫(日本イコモス国内委員会委員長) パネリスト 五十嵐 敬喜(法政大学名誉教授) 五十畑 弘(日本大学教授) 岩槻 邦男(東京大学名誉教授) 松浦 晃一郎(前ユネスコ事務局長) 石井 隆一(富山県知事)

◆基調講演

「世界遺産の歴史や近年の動向からみた立山砂防の防災システム」

前ユネスコ事務局長 松浦 晃一郎

世界文化遺産への登録には、「顕著な普遍的価値な価値」に加えて、建造物が当時そのままの形で完全に残っているかどうかという「真正性・完全性」という判断基準があります。また、近年は景観を重視する傾向にあります。立山砂防は、真正性・完全性という点から見て、当時のものがしっかりとした形で残っています。また、自然を破壊するのではなく、自然と共生する形で、かつ防災システムとして機能する様に作ら

れており、非常に世界的に誇れるものだと思います。今後は、まず第1歩として、日本政府が作成しユネスコに登録する「暫定リスト」に載せることが必要です。立山砂防を自然と共生する形でしっかり保全していくこと、同時に、地域の方々もその趣旨を理解して、世界遺産登録に向けて盛上げていくことが非常に重要だと考えます。

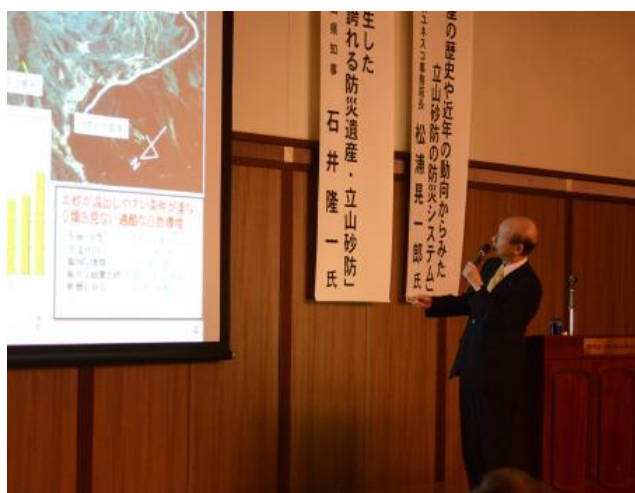


◆講演

「自然と共生した世界に誇れる防災遺産・立山砂防」富山県知事 石井 隆一

立山砂防の「顕著な普遍的な価値」については、これまでの有識者会議等により、①「災害が多い国で生まれた防災の総合技術であること」、②「世界の中で日本の総合的な水系管理技術が近代における到達点であること」、③「立山砂防が近代的な防災技術の1つの典型となっていること」という3つの観点で整理・検証しています。

また、昨年度は既に登録された世界遺産や、登録が検討されている世界の資産との比較分析研究を行い、立山砂防は類似の資産が無く、世界文化遺産として先進的で独自性があることを検証しました。今年度は、これらの成果を踏まえて、推薦する資産の範囲について検討を行っています。皆さんの力添えをいただきながら、世界遺産に登録できるよう頑張っています。



◆パネルディスカッション

「日本固有の防災遺産—立山砂防の防災システムを世界遺産に」

コーディネーター 西村 幸夫 (日本イコモス国内委員会会長)
パネリスト 五十嵐 敬喜 (法政大学名誉教授)
五十畑 弘 (日本大学教授)
岩槻 邦男 (東京大学名誉教授)
松浦 晃一郎 (前ユネスコ事務局長)
石井 隆一 (富山県知事)

五十畑氏 白岩砂防堰堤などは、80数年前に作られ、現在も機能しています。この構造物としての価値こそが、創造的才能をあらゆる傑作といえ、顕著な普遍的価値につながるのではないのでしょうか。今後は、英語での学術的な情報発信が非常に重要であると考えます。



五十嵐氏 白岩砂防堰堤、泥谷砂防堰堤群などを実際にみて感動しました。人類の命をかけた知恵や努力がそこに見えました。富山の文化・伝統・信仰の壮大な結晶点としてこの砂防堰堤があり、そこに世界遺産としての価値があると思います。

岩槻氏 立山砂防は、日本人が災害の多い日本において、安全で豊かな生活のために他国にはない唯一の防災技術を作り上げてきたということの典型例であり、その技術が顕著で普遍的な価値につながるのではないのでしょうか。

松浦氏 100年以上にわたり、人の生命を守り続けてきた歴史のある立山砂防は、是非、世界文化遺産に登録されるべきであると思います。

西村氏 立山砂防は、想像を絶する状況の中で解決策を見出していった創造の傑作です。既存の世界遺産には類例はなく、日本から防災を打ち出す素晴らしいメッセージになると考えます。

知事 来年は、外国の有識者を招聘しての国際的なシンポジウムの開催や、英語版の冊子の作成、国際防災学会の誘致、各学会等への参加など、情報発信を強化したいと考えています。各民間団体の方々と連携しながら、次の世代を担う若い人にもっと関心を持っていただくよう努力していきたいと思います。

